

平成30年度 第2回西諸県地区採択地区協議会 質疑応答・協議の記録

発言者	質疑応答・協議等
<p>【はじめのことば】 会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ただ今より、小学校用教科書及び中学校「特別の教科」道徳の選定協議を行います。 ■ まず、事務局より、小学校用教科書の調査研究経過等について、説明をお願いします。
<p>【説明】 事務局</p>	<p>〈資料をもとに説明〉 ○ 以上で、小学校用教科書の説明を終わります。</p>
<p>【質問】 会長 委員 事務局 会長 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ありがとうございました。事務局の方から4年間の実績を踏まえて協議をしていただきたいということでしたので、何かご質問等のある方は挙手をお願いします。 ● 4年間使用しましたが、学校からの指摘といたしますか、教育委員会または事務局に問題点などは寄せられてないでしょうか。 ○ 事前に各市町に確認をしましたが、そういった問題点等はあがっておりません。 ■ 全教科、問題はなかったということです。他にありますか。 ● なし。
<p>【協議】 会長 委員 会長 委員 会長 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ それでは、採択に関わるご意見等を伺いたいと思います。 ● 前回もしっかりとした観点のもとに、研究がなされておりまして、児童の実態に合った教科書が選定されていると思います。その上で、4年間、問題がなかったということなので、各教科とも前回どおりでよろしいのではないかと思います。 ■ 観点がしっかりしている。児童の実態に合ったものを選定した。問題もなかったなので、同じものでいいのではないかとご意見です。他にありませんでしょうか。 ● 教科書の継続性とか系統性とか考えると、ころころ変わっていくと、ある部分では現場に迷いが生じてしまったりすることがあると思います。特に4年間、現場の方で問題がなかったということであれば、選定もかなりいい選定がなされているようですので、同じものでよいのではないかと思います。 ■ 学校は教科書が決まれば、その教科書に沿って年間指導計画を作っていくわけですので、ころころ変えると年間指導計画を作る作業が多くなって、学校にもかなりの負担をかけることになる。問題がなければ継続でというご意見だったと思います。他にありませんでしょうか。なければ選定に入りたいと思います。 ● はい。

会長	<ul style="list-style-type: none"> ■ 委員の皆さんと協議をした結果、平成31年度使用小学校用教科書につきましては、前回同様の発行者でよいとのご意見が多かったようですが、それでよろしいでしょうか。
委員 会長	<ul style="list-style-type: none"> ● はい。 ■ 全員一致で了承ということになりますので、平成31年度使用小学校用教科書につきましては、前回選定された発行者を選定することとします。 <p>以上で小学校用教科書の選定協議を終わります。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次に、事務局より、中学校「特別の教科」道徳の調査研究経過等について、説明をお願いします。
【説明】 事務局	<p>〈資料をもとに説明〉</p> <p>○ 以上で、「特別の教科」道徳の説明を終わります。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経過報告と選定方法について事務局からの説明がありましたけれども、何かご質問等はありませんでしょうか。なければさっそく選定協議に入ってよろしいでしょうか。それでは、説明をお願いします。
【説明】 教科代表者	<p>〈資料をもとに説明〉</p> <p>○ 以上で、「特別の教科」道徳の説明を終わります。</p>
【質問】 会長 委員 教科代表者 委員 教科代表者 会長 教科代表者 委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> ■ ただいま8者、調査研究の結果を報告していただきましたけれども、何か質問等があればお出してください。 ● 道徳のノートがあるのは、2者ですか。 ○ ノートがあるのは2者です。 ● 他にはありませんでしたか。 ○ 他はついていませんでした。 ■ ノートがあるのは、どこですか。 ○ 日本文教出版と廣済堂あかつきです。 ● 地域の実態ならびに願いといいますか、本地区の願いにふさわしい教科書はどんなところがあるでしょうか。 ○ そういう観点でも調査を行いました。本地区の願いとしては、各自治体とも郷土を愛し、将来郷土を支える人材の育成、地域を愛する心の育成が求められています。また、本地区の生徒の実態としましては、事前調査の結果から、自分の考えをもち、主体的な行動をするのが苦手であるということ、また、多様な考えや個性を理解し、受け入れようとする態度が課題としてあげられます。このような願いや実態から考えたときに、道徳的な価値との関わりからいえば、「郷土愛」や「自主、自律」、「相互理解」や「寛容」につながる内容項目について、全ての発行者が複数教材取り扱っておりました。特に「郷土愛」については、教育出版と学校図書がより多く取り扱っておりました。また、「自主、自律」や「克己と強い意志」については、日本文教出版と光村図書、廣済堂あかつきが全学年において複数教材による重点的な指導の工夫が見られました。さらに、「相互理解」「寛容」については、東京書籍と光村図書が、

<p>会長</p>	<p>発達の段階に応じて複数教材を配置し、重点的な指導の工夫が見られました。</p> <p>■ 整理をしますけれども、地域の願いは「郷土愛」ということでした。特に工夫が見られるのが、教育出版と学校図書の2者。子どもの実態、「自主自律」とか「克己と強い意志」について重点的な指導の工夫が見られたのが、日本文教出版、光村図書、廣済堂あかつきということです。あともう一つ、「相互理解」とか「寛容」というところに課題が見られるという実態がありますが、工夫が多く見られるのが東京書籍、光村図書という報告でありました。よろしいでしょうか。</p>
<p>委員 会長</p>	<p>● 全部ですね。</p> <p>■ ほとんど入っているということです。いろいろな要素を入れて絞っていくということになると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>● 本県の教材を扱っているといえますか、そういった特徴はありましたか。</p>
<p>教科代表者</p>	<p>○ 何者かありますが、まず東京書籍が、最後の方にあります付録で高木兼寛を扱っています。教育出版は1・2年生の付録で小村寿太郎や安井息軒の心に響く言葉を掲載しております。全国のいろいろな偉人の言葉の中に小村寿太郎や安井息軒の言葉が出ております。さらに、光村図書は、付録で日本の郷土玩具として、久峰うずら車を掲載しております。本文としましては、日本文教出版が2年生の教材文で井上康生を大きく取り扱っております。</p>
<p>会長</p>	<p>■ 今、4者いわれましたけれども具体的な場所を教えてくださいか。</p>
<p>委員 会長</p>	<p>(再度、確認)</p> <p>■ ノートがあるのはどこか、地域の実態について、それから宮崎県の素材が入っているかという3点の質問がありましたが、他にありませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>● 説明の中で、3学期制にそって構成がされてあるとおっしゃられたと思ったんですけど、西諸県は2学期制をとっているのので、3学期制で教科書が採用されていると、先生方もやりにくいのかなと、扱いにくい教科書になるのかなという感想をもちました。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>■ 他にあるでしょうか。</p> <p>● 「特別の教科」道徳ということになります。道徳科としたときに目指す授業から考えたときに、生徒が学びやすい教科書はどのような教科書になるでしょうか。</p>
<p>教科代表者</p>	<p>○ 新しい道徳では、考え、議論する道徳への転換が強く打ち出されています。目指す授業として、教材で扱う価値について、他人事ではなく主体的に自分との関わりで考える授業や多様な考え方や感じ方と出会い交流することができるような授業が求められています。したがって、道徳的な価値について、自らの生き方との関わりで振り返り、多面的・多角的に考え、意見の交換が可能となるような工夫が全ての発行者において見られています。特に、東京書籍、日本文教出版、教育出版に</p>

委員	<p>工夫が見られます。東京書籍では、体験的な学習や考え、議論する学習に取り組む資料が豊富です。日本文教出版は、別冊資料で考える学習に適しています。教育出版は多面的・多角的に考える発問を準備しています。</p> <p>● 生徒が興味・関心をもつのが当然なのですが、主体的な学習ということも説明の中に出たと思いますが、主体的な学習を行うための工夫は見られましたか。</p>
教科代表者	<p>○ 今まで道徳の副読本は、資料が文字や文章で載っているのがほとんどですが、新しい教科書については写真や漫画、イラスト等を多く取りあげております。また、身近な問題を取り上げて生徒達が主体的に考えられるように工夫されております。どの発行者も工夫はされているのですが、特にということではいいますと、東京書籍、学研教育みらい、日本文教出版にその工夫が見られると思います。</p>
会長	<p>■ 今2点ありましたが、生徒が議論したり意見が深まったりするものが、東京書籍、日本文教出版、教育出版の3者。次にイラストとか漫画とかあって興味をもたせ、主体的な学習のための工夫が、東京書籍、学研教育みらい、日本文教出版ということでありました。</p>
委員	<p>● 先ほど、ノートの話もでしたが、別冊がある教科書の、メリットとデメリットがあれば教えてください。</p>
教科代表者	<p>○ 別冊ノートに記録する、考えたことを記録したり話し合ったことを記録したりすることで、生徒にとっても考えたことを後で振り返ることができます。また、自分の変容をあとで振り返ることができます。教師にとっても子どもの変化や考えたことを振り返って評価等に生かせるというようなこともあるかと思います。デメリットとしては、ノートに縛られすぎて授業が同じような流れになってしまうことや指導に柔軟性がなくなること、そういうデメリットが考えられます。</p>
会長	<p>■ 最初に質問がありましたが、道徳のノートは日本文教出版と廣済堂あかつきの2者です。その有効性については、先ほどありましたとおり子どものためにもなる、教師の指導に生かすこともできる。ただ、縛られるところもあるということでした。</p>
委員	<p>● 普通、学校で道徳の授業を行う場合、ノートがある、あるいは教師がプリントで吹き出しをつくって書かせるなどありますが、そういうことを考えると、ノートがあった方が、授業がしやすく、準備等の時間を省くためにもいいのではないかと思います、いかがでしょうか。</p>
教科代表者	<p>○ ワークシートがCDとかで添付されている教科書とかもありますが、そういうものについては一時間ごとに印刷とかしてそういった手間がかかります。それからワークシートは、使ったあとの整理整頓など、生徒ができないとばらばらに散らかしてしまう。その点ノートだと管理がしやすい、授業の前に配ったり集めたりということがやりやすいというのはあると思います。</p>
会長	<p>■ 他にありませんでしょうか。</p>
委員	<p>● 小学校は、道徳の教科化でノートを使っているようですが、小学校と</p>

<p>会長</p>	<p>中学校が連携していた方がいいのではないかと思います。道徳の授業では、発達段階で感じ方が変わってくるので、自分は小学校の時こんなことを書いていた、中学校の時こんなことを書いていた、大人になった時にそのノートをもっていけば、自分の考えたことの振り返りができるのではないかと考えたのですが。大人になってからも人生で迷うときに自分は何を考えていたのだろうかとか、記録に残せていたらいいかなと、そのためのノートなので、いいのではないかと感じております。</p>
<p>委員</p>	<p>■ きちんと振り返られる記録があった方がいいということですね。他に質問はないでしょうか。</p> <p>● 今、地域のこととかいろいろありましたが、いじめについて詳しく取り上げている、子どもの観点からわかりやすい、どこかの発行者で、「いじりといじめの境目はどっから」などありましたが、そういういじめのことについて、子どもがわかりやすく学びやすい工夫は見られましたか。</p>
<p>教科代表者</p>	<p>○ 教科化の一番の改訂の主旨というのが、いじめの問題と命に関わる問題ということで、各者それについて本当に力を入れて編集しております。どの者というのは、なかなか難しいのですが、イラストとか漫画とか子ども達に親しみやすいもの、確かに使って身近に捉えられるように工夫している発行者が何者もあります。文章で書いてあるよりもイラストとか漫画で書いてある方がぱっと目に入ってきて、考えるのにいい内容になっている。先ほどあげましたが、そういう工夫が各者してあると思います。</p>
<p>委員 会長</p>	<p>(目次を見ながら、いじめ・命の題材について確認)</p> <p>■ 他になければ教科代表者に退席していただきますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>● はい。 (教科代表者は退席)</p>
<p>【協議】</p>	
<p>会長</p>	<p>■ 選定の協議に入りたいと思います。それぞれの委員さんが、これがいいのではないかといいものがありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>● 教科書を家に持って帰って見ていたのですが、ほとんど似ていると感じました。どこもうまくされているなという感じはしました。非常に考えさせられるよい内容だったなと思います。その中でどこか1者を決めないといけないということになれば、例えば、学びやすい、あるいは、ノートがついていた方がリスクはありますが、指導者にしても生徒にしても取り組みやすいのではないかと感じます。特に東京書籍か日本文教出版に工夫が見られたのではないかと思います。それから、他の教科と比べて小学校との系統性はないかと思うのですが、西諸県地区が小中一貫をずっと続けている、そういう意味では、共通したものをと考えていたら、日本文教出版がいいかなと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>■ ノートの価値はあるのではないかと。それと小学校とのことも考慮していく必要があるのではないかとのご意見でございます。</p>

委員	● 本県の素材が使っているかというところで、郷土愛ということを考えてたときに、4者あったと思うのですが、先の3者は付録ということでしたので、教材文として扱っている柔道の井上康生さんの内容がありまして、これがいいのかなと思ったところです。
会長	■ 本県の素材、郷土愛というところで井上康生さんが一つの教材文として取り扱っているものがよいというご意見です。その他の取扱いとは少し違うということでした。
委員	● 道徳の教科といったときに、他の教科と違って難しいところがあると思います。どの教科書も本当に工夫があっっているのですが、その中でも先生達が評価をするときに具体的に活用するものもあるといいなと思いました。そのなかでどれというのはないのですが、先ほども出ていましたノートなども考慮して決めた方がいいのではないかと思います。
会長	■ 評価ですね、ノートがある日本文教出版と廣濟堂あかつきを見てください。廣濟堂あかつきの6・7ページを開いてもらって、同じように日本文教出版の6・7ページを見たときに、ちょっとスタイルが違います。評価が大事だということでご意見をいただきました。
委員	● 重さとかサイズとかでも最近はいろいろいわれていますけれども。ノートがついていれば、子どもの感じていることを見て、保護者として、今何を考えているのかなというの一目で分かる。子どもの心を見ることができるといことは感じました。
委員	● 「特別の教科である道徳」だから先生達もノートがあると安心して道筋が立つといいですか、親としても学年が変わったときに年ごとに子どもの心の変化がみられる、先生達が作った紙だと見る機会はほとんどない。
委員	● 命の大切さがどのようになっているのかなと思ったんですけども、話を聞きながらノートがあって、そこに観点があって考えを絞れるなと思いました。子ども達はイラストとか写真とかそういったものも必要かなと思いました。
会長	■ 他になければ、選定の投票に入ってよろしいでしょうか。
委員	● はい。
会長	■ それでは今までの協議をうけて発行者を決めていただくこととなります。自分が思った発行者にまるをつけていただければと思います。 (発行者にまるをつける)
一同	
会長	■ それでは、投票の結果、日本文教出版が8、廣濟堂あかつきが1であります。したがって、西諸県地区の道徳の教科書については、日本文教出版ということで決定いたしました。よろしいでしょうか。
委員	● はい。
【おわりのことば】	
会長	■ 以上で、中学校「特別の教科」道徳の選定協議を終わります。 ■ これで、選定が終わりました。委員の皆様のご協力に、感謝申し上げます。ありがとうございました。